

自ら課題を見付け、自分の考えをもてる児童の育成

－ 「はてな？ウェビングシート」の活用とイメージマップの分析を通して －

総合的な学習の時間班

土井 洋平(小学校教諭)

現状と課題

〈児童の実態〉

- ・児童の思考や学習に対する姿勢に、やや一問一答で受け身・指示待ち的な傾向も見られる。
- ・試行錯誤しながら問題解決に取り組む経験が少なく、難しい課題に対して、何とかしてその解決を試みようとする姿勢は十分とは言えない。



「自ら学び、自ら考える」
探究的な学習の
“充実”の必要性



自ら課題を見付け、
自ら追究し、
自分の考えをもつ
児童の育成

実践の概要(総合的な学習の時間)

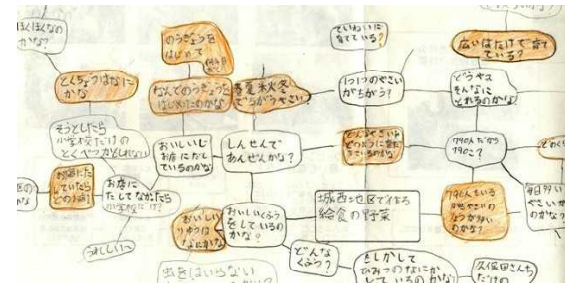
見通し①

・「課題の設定」の過程において、個々の児童が探究対象に対して抱いた素朴な疑問とそれについての予想をつないでいく「はてな？ウェビングシート」を用いて発想を広げていくことは、児童それぞれの課題意識が明確になり、自己追究課題を設定することができるであろう。

「はてな？ウェビングシート」で発想を広げ、自己追究課題を設定する。

「はてな？ウェビングシート」とは

○探究対象に対する児童の「疑問(どうなのかな?)」と、それに対する「予想(こうなのかな?)」を、「～なのかな?」といった文末のつづりやきで結び、思い思いに発想を広げていくものである。今回は探究する上での三つの視点・方向性を提示し、その中の興味のある一つをウェビングの起点とした。



みんなでイメージマップを作りながら調べたことと、友達が調べたことをまとめていたら、自分の考えをもつことができたよ!



【整理・分析を通して、自分の考えをもつ】



地場産野菜農家での見学・調査活動

【いろいろな情報を収集する】

③情報の収集

- ・城西地区の野菜農家の方
- ・城西地区で作っている給食の野菜
- ・農産物直売所で販売されている城西地区の野菜

④整理・分析

【学習対象に積極的にかかわる】

①ふれる・つかむ

【自己追究課題を立てる】

⑤まとめ・表現

「はてな？ウェビングシート」を使って自分の思いを広げていたら、自分がどうしても知りたいことが見えてきたよ!



見通し②

・「整理・分析」の過程において、見学・調査活動で収集した情報をグループで報告し合い、イメージマップを作成しながら内容を分析することは、自分の得た情報と他者の提供した情報との共通点を見いだすことができ、児童一人一人が自分自身の考えをもつことができるであろう。

イメージマップを作成しながら内容を「分析」し、自分の考えをもつ。

○それぞれの地場産野菜農家で「情報の収集」を行った児童が集まり、報告し合いながらイメージマップを作成し、「分析」する。

○見学・調査活動の際にメモした情報を、個人できず「整理」する。

※収集した情報を、「分かったこと」と「思ったこと」に分類する。

イメージマップとは

○三つの探究対象それぞれで児童が収集した情報を持ち寄り、お互いに報告し合いながら、友達の情報を探知対象ごとにイメージマップシートに書き込み、情報を集約していくものである。全員の情報が書き込まれた後、集まった情報を比較したり、関連付けたりしながら「分析」することで、共通点を見出すことができると考える。



成果と課題

成果

- 「はてな？ウェビングシート」を用いることで児童の発想が広がり、児童それぞれの課題意識が明確になり、自己追究課題を設定することができた。
- イメージマップの作成及び分析をグループで行うことによって、自分の得た情報と他者から提供された情報の共通点に気付くことができ、児童一人一人が自分の考えをもつことができた。

課題

- 広がったウェビングから、児童が自分の知りたいことを集約・統合して、自己追究課題を設定する際の視点や手立てを工夫する必要がある。
- イメージマップの手法を用いて情報を集約し、そこから共通点を見出して分析する際に、個別の調査結果と小単元全体を貫くテーマをいかに関連させるかについての工夫が必要である。